

～原子力の
理解を求めて～

えねるぎーかわらばん

Vol. 51
福井県原子力平和利用協議会 略称(原平協)
事務局：敦賀市平和町24-3-1 TEL：0770-24-5450
http://www.bitlabo.com/~genheikyotsuruga/index.html

ご存じですか!! 日本のエネルギーの現状を... 地球規模の環境問題はどこへ...

3月11日に発生した東日本大震災により、東京電力(株)福島第一原子力発電所は甚大な被害を受け、周辺地域に放射能汚染という事態となりました。それ以後、原子力発電の安全性が疑われるようになり、「脱原発・減原発」と叫ばれてきました。日本におけるエネルギー基本計画や原子力政策大綱も見直す事態となっています。

私たち福井県原子力平和利用協議会は、日本のエネルギー事情や地球規模の環境問題についても考えていきたいと思っております。

日本はエネルギー資源が乏しい

私たちの生活が便利になるにつれて、必要なエネルギーも急激に増えてきました。2度の石油危機以降、産業の分野を中心に省エネルギーに努めるようになり、一時的には消費するエネルギー量が減少する傾向になりました。しかしその後、エネルギーの消費はまた増加を続けています。

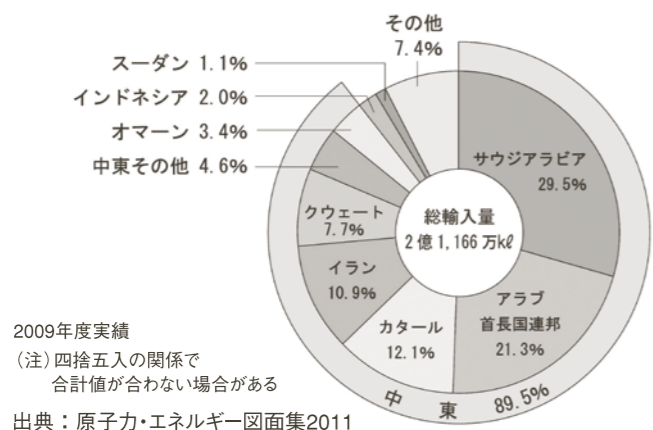
日本はエネルギー資源が乏しく、全エネルギーの約8割(原子力を準国産として扱う)を輸入に頼っています。

そのため、安定したエネルギー源の確保は国として重要な課題となります。

日本では原油の約9割を中東諸国から輸入しています。先進国のなかでも原油輸入量の多い日本は、エネルギー資源の不安定な供給構造といえます。(図1参照)

このため、省エネ製品の利用や生活習慣の改善などの省エネルギーに努めることもエネルギー資源の乏しい日本にとっては重要なことです。

図1 日本が原油を輸入している国々の割合



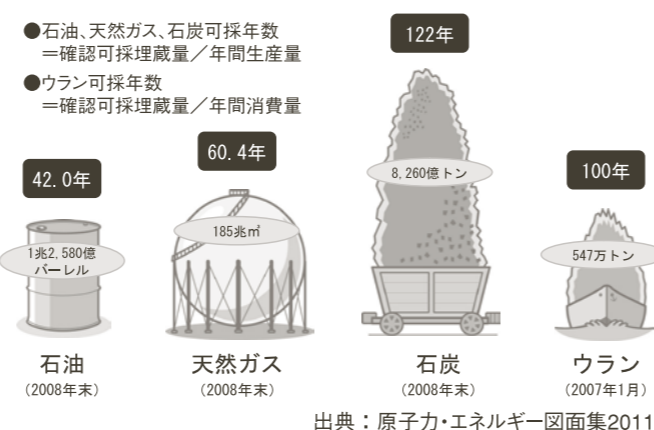
エネルギー資源には限りがあります

私たちが使っているエネルギーは、石油、天然ガス、石炭、ウランなどからできています。こうしたエネルギー資源の素は地球の中で長い間かかって作られました。

石油や天然ガスは、海の底に積み重なったプランクトンなど太古の生き物の死骸が、バクテリアや地球の熱の働きで変化したものと言われています。石炭は、湿地帯に密生していた木々が倒れて土砂が積み、地球の熱や土砂の圧力で長い年月の間に変化したものです。このように動物や植物からできたエネルギー資源が化石燃料です。

ウランは、地球が誕生したばかりの頃、衝突してきた小さな惑星の中に含まれていました。それが地球の奥深くで何十億年もかかってウラン鉱石になったのです。どのエネルギー資源も埋まっている量に限りがあり、使い続けるといつかはなくなってしまうのです。(図2参照)

図2 世界のエネルギー資源確認埋蔵量



地球規模の環境問題

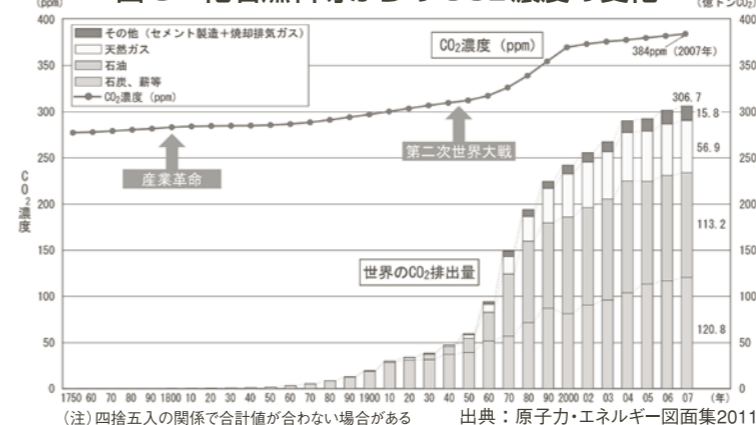
地球温暖化対策は、単に温室効果ガス(注1)を削減すればよいというのではなく、エネルギーの安定供給と両立させなければなりません。

18世紀の産業革命以降、化石燃料の使用が急速に増加し、化石燃料を燃やすことによって発生するCO₂の排出量は大幅に増えてきています。(図3・4参照)

火力発電の燃料として利用されている石油は、交通機関の燃料、化学製品の原料としても貴重な資源であり、大切に使う必要があります。

[注1 温室効果ガスには、CO₂の他、メタンや代替フロンなどがあります。]

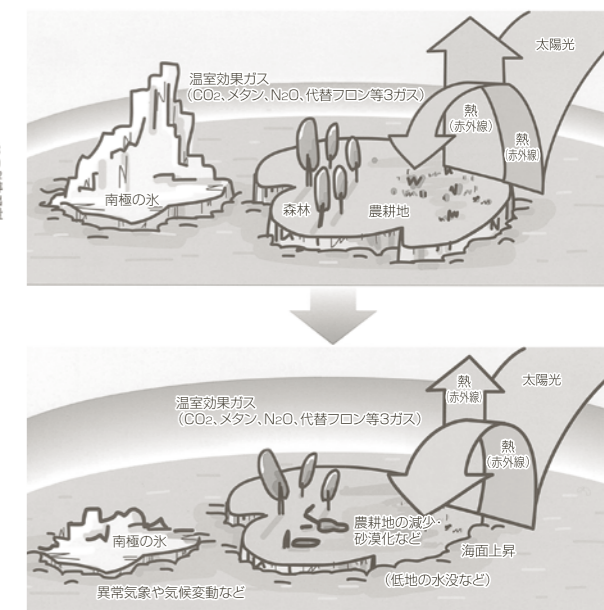
図3 化石燃料等からのCO₂濃度の変化



日本の将来を考える

日本はエネルギー自給率4%(原子力を準国産として扱えば約20%)の、エネルギー資源の乏しい国です。これからも限りある資源は有効に使い、地球温暖化の防止の為に再生可能エネルギーも活用し、地球規模の環境問題にも目を向けなければいけないと考えます。

図4 温室効果ガスによる地球温暖化への影響



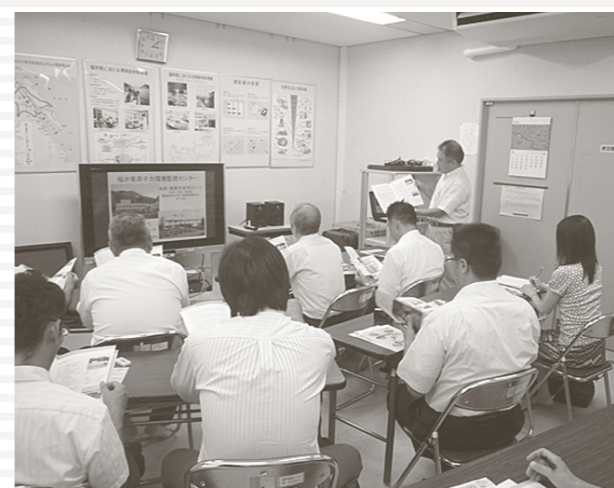
出典：財団法人日本原子力文化振興財団「原子力2010」

時の話題 原平協敦賀支部青年部が 放射線に関する講演会開催

2011年度福井県原子力平和利用協議会敦賀支部青年部事業活動計画を作成するにあたり、メンバーの役割を明確にし、青年部一丸となって事業活動を展開することと致しました。

本年度事業活動を財団法人日本立地センターの平成23年度『草の根NPO等活動に関する支援事業』へ企画申請した結果、青年部の活動趣旨が認められ、この支援事業の認定を受けることが決まりました。

既に現在までに、『放射線と放射能の基礎知識』をテーマに勉強会を開催し、福井県原子力環



県原子力環境監視センターでの研修

境監視センター及び同福井分析管理室の視察、福井大学附属国際原子力工学研究所の泉教授による講義を受け原子力と放射線分野の新たな知識を得ることができました。

又、電力事業者との対話集会を開催し、我々メンバーの家族や知人が今事業者に向けて聞いてみたい事を膝詰でザックバラに討議をして、より深く原子力や放射線、放射能に対して理解を深めました。

3月11日の東日本大震災により、東京電力(株)福島第一原子力発電所において、未曾有の事故が発生致しました。事故発生直後から新聞やマスコミ等の様々な媒体により、事故の被害や対策について報じられました。評論家や専門家の様々な見解が飛び交う中で、メンバーの中にも、何を信じてよいのかわからず必要以上の不安感を抱いた者が多かったです。多くの一般市民の皆様が同様に混乱されたのではないかと思います。

青年部としては、原子力発電についての良し悪しの議論ではなく、立地地域の住民として、原子力や放射線、放射能についての正しい知識を地域の方々に理解してもらおう事が、大切であると考えました。

そこで、12月4日(日)午後2時より敦賀市きらめきみなと館小ホールにおいて、一般の方を対象に『子育て世代の気になる放射線のお話』と題して、金沢工業大学科学技術応用倫理研究所から大場恭子氏をお招きし、ご講演をいただきます。皆様のご来場をお待ちしています。

このたびの東日本大震災によりお亡くなりになりました方々に心よりご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災されました地域の方々には心よりお見舞い申し上げます、一日も早い復旧・復興されますようお祈り申し上げます。